

2019 年度事業報告書

前年度まで実施していた町の委託事業「みんなおいデイ」「いきいきクラブ」が廃止になり、事業縮小、常勤職員 2 名の退職など変化の多い 1 年になった。介護保険事業においては通所介護において多くの利用があり過去最高益となり、収支については 3 年ぶりの黒字決算となった。

2019 年度に事業計画として掲げた項目について、介護職員の増員については、上記のように常勤職員が 2 名減となり、介護職員不足に拍車がかかる結果となったが、その中でも職員配置を工夫し対応し、地域に対して安定したサービスを提供することができ、実績の底上げにつながった。

活動拠点の整備構想・新事業の開発については、職員確保が難しくなる中、事業場の集約など検討も行ったが、現状の事業などの兼ね合いから直ちにという対応は難しく、継続して検討を続けることとなった。

その他の事項については次の通りであった。

◆ 会員

会員数は次表のとおりで、年度末時点で正会員 69 人のうち 49 人が役員及び職員で、それ以外が 20 人となっている

	19 年度末	18 年度末
正 会 員	67 人	69 人
協 力 会 員	15 人	37 人
賛 助 会 員	12 社	13 社

◆ 機関会議

①通常総会

日時：2019 年 5 月 25 日(土)10 時 00 分～12 時

場所：京丹波町商工会瑞穂支所

出席：正会員 69 人中 62 人出席(本人出席 30 人、書面表決 28 人、委任状 4 人)

議題 第 1 号議案 2018 年度事業報告承認の件

第 2 号議案 2018 年度活動決算承認の件

第 3 号議案 2019 年度事業計画承認の件

第 4 号議案 2019 年度活動予算承認の件

太田昇京丹波町長を来賓に迎え、全議案とも原案どおり可決承認した。

②理事会

年間 3 回開催し、それぞれの時点での活動状況や課題を協議した。

第 1 回 2019 年 5 月 18 日(土) 通常総会提出議案について

第 2 回 2019 年 10 月 10 日(木) 活動の現状報告について

第 3 回 2020 年 3 月 16 日(月) 決算見込と賞与の支給について

◆職員

①常勤職員

常勤職員は2名減(1名退職・1名解雇)となり10名、事務所7人(ヘルパー部門4人、ケアマネジャー3人)、デイサービス4人を基本の配置とした。

解雇の職員については、昨年末に利用者と職員間で不明朗な金銭のやり取りがあり、就業規則に従い解雇とし、事業所としてもこの事案に対処し、全体会議で事案を共有し、マニュアルの読み合わせ、法令順守の再徹底など、再発防止を図った。

②非常勤職員

人員は前年度と増減なし。配置は訪問介護18人、デイサービス13人、事務2人とし、必要に応じて兼務した。

◆研修

①内部研修

職員による研修委員会を組織し、職員自身の企画・運営によりヘルパー会議において次表の研修を実施した。

時期	テーマ
6月	介護技術・接遇
7月	非常時・緊急時の対応
8月	プライバシー保護、法令順守
9月	認知症
10月	交通安全
11月	感染症予防
1月	介護職員のストレスケア
2月	虐待防止・身体拘束排除

②外部研修・会議出席等

介護技術や知識、事業所運営に関して関係機関や民間が開催する研修や会議に担当者や希望者を参加させた。主なものは次表のとおりである。

	テーマ	主催
4月	京丹BAR	
5月	ステップアップ研修～介護力を磨こう～第1回	南丹リハビリ支援センター
	助成金セミナー	あいおいニッセイ同和損保
	介護相談員派遣希望事業者会議	京丹波町
6月	介護保険サービス事業者等にかかる集団指導	京都府
	障害福祉サービス事業者等にかかる集団指導	京都府
	ステップアップ研修～介護力を磨こう～第2回	南丹リハビリ支援センター
7月	オレンジロードつなげ隊フォローアップ研修	京都府
	ステップアップ研修～介護力を磨こう～第3回	南丹リハビリ支援センター
	京丹波町ヘルパーのつどい	町内各事業所
	介護相談員派遣事業所会議	京丹波町

8月	ハタラクカタ改革関連法改正セミナー	リコージャパン
	生活困窮社会における地域づくり	府社協
9月	京都府認知症介護実践者等養成研修 認知症リーダー研修	京都府
10月	介護相談員派遣事業所会議	京丹波町
	働き方関連法に関する説明会	京と労働局
11月	京都丹波オレンジロードつなげ隊企画会議	京都府
	生活機能低下に気づくためのチェックポイント	南丹リハビリ支援センター
	福祉職場における記録の書き方セミナー4	府社協
	虐待防止と施設・事業所職員のメンタルケアを考える 研究会	府社協
12月	高次脳機能障害について知ろう	南丹リハビリ支援センター
1月	京丹波町ヘルパーの集い	
2月	第10回なんたん在宅医療連携研究会	なんたん在宅医療連携研究会

・常勤職員1名が京都府認知症介護実践者等養成研修「認知症リーダー研修」を修了した。

◆広報活動・その他

①情報発信

広報誌『クローバーだより』を毎月約400部発行し、会員、全利用者、関係機関等に配布し、ホームページにも掲載した。

②職員クラブ活動

「気功・絵手紙」クラブが月1回の活動し、一般住民を含め毎回約10人が参加した。

③おせち料理配布

NPO 法人まごころサービスあい愛と連携し、同法人作製のおせち料理18食を希望者に届けた。

◆「助け合い」事業

①ヘルパー活動

実際にサービスを利用したのは12人で、このうち「助け合い」のみの利用は1人、他の人は介護保険の限度額超過分の振り替えが多数だが、大掃除など介護保険で不可能な事をカバーする本来の助け合いとしての利用もあった。

京丹波町高齢者日常生活支援事業による住民税非課税世帯の利用者に対する利用料減免は10人、減免額合計は56,000円であった。

【利用実績】（※利用者数の「合計」は、月々の利用者実数を年間合計したもの、以下各表とも同様）

	月平均	最多月	最少月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
利用者数(人)	4.7	7	3	56	68	82.4%
回数(回)	73.8	116	54	885	1088	81.3%
時間数	45.19	114.15	63:45	542.5	1168.15	46.4%

②認知症支援

「認知症カフェ」を毎週月曜日(祝日を除く)に開催し、1日 500円 半日 300円へ値上げをおこなった。祝日や新型コロナウイルスの影響により開催回数、利用人数は前年度より少ない結果となったが、毎回 20名程度の利用があった。

認知症当事者や介護者よりも一般住民の参加が多いのが実情だったが、利用者主体になるように工夫しながらの開催をおこなった。

月に1度臨床美術教室「脳アート」も行い毎回10名を超える利用があった。尚、「脳アート」については都合により20年度からは開催中止となった。

20年3月からは新型コロナウイルス感染予防の為休止している。

〔利用実績〕

	月平均	最多月	最少月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
開催回数	3.3	4	3	39	54	72.2%
延べ利用者(人)	75.9	113	67	911	1239	73.5%

◆ 外出支援事業 (福祉有償運送)

ほぼ前年通りの利用であった。京丹波町内外への通院での利用ニーズが高く、多い日は1日10名を超える利用があり、職員のやりくりをしながら対応し、理事数名にもボランティア運転手として協力を願った。京丹波町との協議をかさね次年度よりの料金アップ、待機料金の新設など料金改定の話合いが成立した。

京都新聞社会福祉事業団に軽自動車1台の助成を申請し138万円の助成を受け軽自動車1台を導入した。

〔利用実績〕

	月平均	最多月	最少月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
利用者数(人)	69.1	77	61	829	781	106.1%
回数(回)	239	286	195	2,869	2,926	98.1%
走行距離(km)	2180.1	2588.8	1991.0	26,161.3	26,351.8	99.3%

◆ 障害者居宅介護事業

利用者数は横ばいの状況であるが入院などで前年度に比べ時間数の減少となった。訪問介護員の減少に伴いヘルパーの交代が度重なったが、丁寧な状況説明に努め理解を得た。

重度訪問介護の利用依頼も数件あったが、介護職員不足により希望に応えられなかった。

〔利用実績〕

	月平均	最多月	最少月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
利用者数(人)	7.4	8	7	89	99	89.9%
回数(回)	68.7	79	58	824	844	97.6%
時間数	65.17	72.75	52.25	782.00	825.25	94.8%

◆介護保険事業

①居宅介護支援

地域ケア会議や外部研修、月1回の内部研修に参加し研鑽に努めた。

医療との連携を重視し、病院の地域連携室を通し入院情報提供、退院時情報収集に努め加算対象が増えた。

利用者の高齢化と重なり長期のショートステイ利用や骨折による入退院が多くみられ、区分変更・長期入所の希望者が増えた。

医療連携が重視されターミナルケア加算が新設されたが対象者はなかった。

介護予防の受託3名・総合事業の受託1名。総合事業の対象者は4月のみであった。ケアマネの常勤換算2.5名できめの細かい対応が行えた。

懸案であった管理者に主任ケアマネージャーの資格が求められるという要件は地域特性により見送られた。

9月に実施された京丹波町の現地指導において運営規定・重要事項説明書の不整合、組織内での情報の共有、居宅サービス計画書について指摘があり、改善を行った。

〔利用実績〕

		月平均	最多月	最少月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
件数	介護	56.2	58	53	674	652	103.4%
	予防	3.8	5	3	46	38	121.1%
	総合	0.1	1	0	1	15	6.7%

②訪問介護

利用人数・回数共に前年を下回る結果となった。訪問介護員が不足する中、新規の利用者にあっては受け入れが困難な場合もあったが、訪問介護員の配置を工夫しながら、サービスを必要とする1人でも多くの利用者サービスが提供できるように努めた。

常勤職員にあっては外出支援事業も兼務で行うため、繁忙を極める時期もあった。

ヘルパーマニュアルを更新し、特に重要な項目は全体会議等で再度周知を行った。

サービス提供責任者が各利用者宅の同行訪問を行い改めて、利用者の活動確認を行った。

京都府の現地指導では、居宅介護支援事業所との計画の整合性について指摘受け改善した。

恒例となった京丹波町内の介護保険事業者が集う「ヘルパーの集い」に参加し他事業所との交流を図り情報収集・研修などで、職員の研鑽に努めた。

3月より常勤職員1名が通所介護より異動となった。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、情報収集に努め、それに基づいた感染予防策を講じながらの活動を行っている。

〔利用実績〕

		月平均	最多月	最少月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
利用者数(人)	介護	43.3	46	40	519	511	94.5%
	総合	3.8	5	3	46	61	79.2%
回数(回)	介護	537.8	586	504	6454	6,973	82.9%
	総合	22.2	32	14	266	328	69.8%
時間数(時間)	介護	523.47	563.17	481.42	6281.59	6,355.66	89.0%
	総合	22.17	32.0	14.0	266.0	295.20	71.7%

③通所介護

今年度は年間を通し、おおむね利用人数が安定して、多くの利用があり最高益となった。

新規利用は13人で、施設入所2人と死亡4人その計6人が利用停止となった。

センターの廊下の老朽化の為6月に床の張替えを行った。

京丹波町による実地指導では、運営規定、重要事項説明書の不整合、事業所内での情報の共有の不備の2点の指摘があり改善を行った。

京丹波町の介護相談員派遣事業の相談員2名を受け入れ、介助ボランティア・音楽ボランティアの活用、保育園、他事業所との交流も行った。

地域密着型運営推進会議は8月と2月に開催した。

3月からは新型コロナウイルス感染予防策をとりながらの運営を行っている。

〔利用実績〕

		月平均	最多月	最少月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
開催回数(回)		25.8	27	24	310	308	100.6%
利用者 実数(人)	介護	34.1	37	32	409	399	111.7%
	総合	2.6	4	1	31	29	91.2%
延利用 者数(人)	介護	291.9	323	260	3503	3532	108.9%
	総合	9.8	13	3	117	157	78.0%
1回平均(人)		11.68	12.7	10.2	11.68	10.9	106.8%

◆その他

日本財団チャリティー自動販売機収益より4,740円を日本財団へ寄付した。

以上